

## 案件概要書

2013 年 4 月 23 日

国際協力機構アフリカ部アフリカ第四課

### 1. 案件名（国名）

国名： コンゴ民主共和国

案件名： マタディ橋保全計画（Projet d'Aménagement du Pont Maréchal à Matadi）

### 2. 事業の背景と必要性

#### (1) 当該国におけるインフラセクターの開発実績（現状）と課題

コンゴ民主共和国における交通インフラの状況は劣悪であり、全国の 10 の州都のうち、首都キンシャサと結ばれているのは 4 つのみとなっている。このため、国内を結ぶ道路交通網の整備・拡充が、経済開発、政治的一体性、及び平和と安定の観点からも重要な課題となっている。

#### (2) 当該国におけるインフラセクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

上述の状況を踏まえ、カビラ大統領は 2011 年 12 月の就任演説にて掲げた 5 つの優先分野（Cinq Chantiers）の中で、最優先課題にインフラ整備を挙げている。また PRSP（貧困削減戦略文書）及び 5 ケ年行動計画（2012 年－2016 年）においても、「マクロ経済の安定化と成長」の中で運輸・交通の整備が優先課題に挙げられている。

1983 年に日本の円借款で建設されたマタディ橋は、世界第二位の流域面積を誇るコンゴ川に架かる唯一の橋であり、当国と日本の友好の象徴ともなっている。マタディ市は当国最大の港湾を有し、首都キンシャサのみならず、国全体の玄関口となっているほか、より下流に位置するボマ港、外港として本格的に整備される予定であったバナナ港と首都をつなぐ陸運の要衝に位置し、コンゴ川兩岸を結ぶ唯一の橋として重要な役割を果たしてきた。他方、近年、国際的に吊橋の主ケーブル腐食による劣化の問題が指摘されており、世界中の吊橋において腐食の進行を遅らせることを目的とした送気乾燥システムの導入が進められている。マタディ橋も建設後 29 年を経た現在、主ケーブルの劣化が最大の懸念事項であり、このまま放置し続けた場合、主ケーブルが切断される可能性も指摘されている。このような状況を踏まえ、マタディ橋の維持管理を担うバナナ・キンシャサ交通公団（OEBK）は我が国に対し送気乾燥システムの導入を要請した。

#### (3) インフラセクターに対する我が国の援助方針

我が国は TICAD において「成長の基盤整備」に係る支援としてインフラ整備を重視している。我が国は対コンゴ民主共和国国別援助方針にて「経済開発」を当国に対する重点協力分野の一つとしており、「経済インフラ整備プログラム」を実施している。同プログラムでは、技術協力プロジェクト「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」を実施している。

#### (4) 他の援助機関の対応

EU、DfID、世銀、AfDB 等が交通インフラ整備に係る支援を行っている。

### 3. 事業概要

#### (1) 事業の目的

マタディ橋メインケーブルへの送気乾燥システムの導入により、マタディ橋が長期に亘り保全され、地域経済、社会福祉の向上に貢献する。

#### (2) プロジェクトサイト/対象地域名

バ・コンゴ州マタディ市

#### (3) 事業概要

- 1) 土木工事（送気乾燥システムの設置、ケーブルバンドの再締め付け、ケーブルのコーキング、再塗装）
- 2) コンサルティング・サービス（詳細設計・施工監理）

#### (4) 事業実施体制

事業実施機関： バナナ・キンシャサ交通公団

#### (5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

##### 1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： C

② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 貧困削減促進等： 同橋は開発の遅れるコンゴ川右岸住民がマタディ市街にアクセスする手段となっており、橋の寿命延長は貧困層にも裨益する。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： 現在実施中の技術協力プロジェクト「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」と連携し、本事業を実施する。

(7) その他特記事項： 特になし

### 4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

#### (1) 類似案件の評価結果

モザンビーク国第二次幹線道路橋梁再建計画事後評価等において、橋梁再建の効果は道路やその他周辺インフラの整備状況にも大きく左右されるため、同セクターにおける政府の開発戦略、他ドナーの動向等を把握する必要性が指摘されている。

#### (2) 本事業への教訓

本事業では、対象橋梁の使用頻度に影響を及ぼす可能性のある周辺インフラの整備状況についても事前調査対象とし、地域全体の開発計画とその実施状況を踏まえた対象橋梁の位置づけを確認することとする。現時点では、バナナ港、ボマ港、及びバナナーマタディーキンシャサ間の道路の整備状況がマタディ橋の使用頻度に影響を及ぼすと考えられるが、調査において詳細を確認の上、見通しについて分析する予定。

以上

〔別添資料〕地図

# 案件位置図

